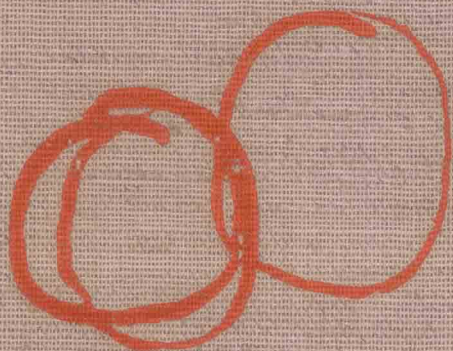




高見順全集

第十三卷

勁草書房刊

高見順全集 第十三卷

定價三二〇〇圓

昭和四十六年六月十五日印刷
昭和四十六年六月二十五日發行

著 者 高 見 順

發行者 井村壽二

印刷者 山田 博

發行所 勁草書房

東京都千代田區神田駿河臺二ノ三
電話東京二九四(六二二一)
振替東京一七五二五三
© 高 見 順 一九七〇
〇三九五—八三三三〇〇—一八三六

高見順全集 第十三卷

編纂委員

川端康成

伊藤整

澁川驍

平野謙

中村眞一郎

小田切進

目次

漸く佳境に入る	17
解放された「個」の藝術	20
學内同人雜誌の統一に就いて	23
六號感想	25
マヨリテの立場から	31
當り前の文學	34
我國に於ける尖端藝術運動に關する一考察	36
批評基準の二元論的歪曲と一元論的確立	47
文藝批評の原則的問題に就いて	61
最近の腹臆	68
素質考	71
三〇年度の展望	73
表現技術の方向	78

藝術派に關して

藝術派の反動性

「同伴者的」と「我らの文學」

『集團』の傾向に就いて

作品審査及び批評について

書けると書けないと

情痴のこと其の他

浪漫的精神と浪漫的動向

このモダモダや如何にせん

なんぞ原始的なる

金をかせ

私語

饒舌とは何か

非常識の辯

愛憎二ならず

頽廢の毒

描寫のうしろに寝てゐられない

頭隠して尻隠さず

一個の人民

文學に於ける官尊民卑

小説について

文學に於ける教師と友人

可笑しい眺め

武裝解除に就いて

新聞小説論

小説は讀まれなくてはならない

問題は長篇か短篇かに非ず

現代文學に對する愛情を

美學・モラル・説話體

文藝への關心

口髭と鳩胸

小説はどんな目鼻をしてゐるか

言葉と文章

言語混亂に就て

新しき散文精神を検討する

病中忙語

高沖陽造とは何者か

文學賞小論

純文學と私小説

この頃

『文學界』解消を望む

小説的問題と讀者

苦悶の新装

性格への懷疑と長篇小説

綜合雜誌の苦悶

政治と「政治的」

青眼白眼

風俗小説と思想小説

綜合雜誌の今日の苦痛

女性の描き方

直哉的リアリズムと漱石的傳統

事變と文學への投影

湖中の小説

自分のもの

今日の文學

事變と純文學

小説家の資格

讀者と半玄人

跛行が顧られる

文學する悩み

批評と作品	249
文學に於ける獨創と順應	252
人間味	256
宇野浩二のハイカラといふことから	258
ひとつの傾向	261
創作界の現状	263
人間像の脆弱	270
最近の感想	275
思考と製作と生活	278
新小説案内	280
無藝と餓鬼	283
文學的風格とスタイル	285
心と形	288
批評的隨筆	290
小説にも練習を	292

脚本難に就いて

大變な代物・その他

小説を讀まないといふこと

文藝的雜談

恥を搔くといふこと

貫ひ泣きの原理からの考察

小説の混亂

呂昇藝談

文學の新體制

反俗と通俗

「轉換期に於ける作家の覺悟」を問はれて

「小説の運命」を問はれて

文化に就いて

いちぢくの葉

文化の儚さ

文學非力説	349
再び文學非力説に就いて	355
現状への直言	362
大東亞共榮圈と國民文學	365
ものを作る者の心	367
文學に於ける人間の問題	371
文化への反省	378
文學の薄命	385
文學と現實	389
チエーホフは何故サガレンへ行つたか	400
日本文學に於ける寫生精神の檢討	419
日本の近代小説と私小説的精神	429
文學者の運命	445
小説の造型性	453
悲劇の周圍	455

リアリティとリアリズム	461
小説の分りにくさの問題	469
小説を書くといふこと	476
方法と個性と精神について	482
文學的分裂精神	491
病める文壇風景	492
林檎を腐らせることについて	494
小説流行時代	502
俗物について	504
誤解文化	506
言葉について	509
未知なるものについて	511
文學青年論	514
言語における痴呆現象の問題	520
文學と倫理	526

現代の寵兒

現代と現代文學における言葉の問題

作家の立場から

古典とのめぐり合ひ

日本文學に於ける東洋と西洋

藝術革命と革命藝術の問題

讀者の變化と今日の文學

評論的實踐と實踐的作品

文學修業の今昔

讀者の文學論爭參加

日本文學の正統繼承者としての任務を

文學的思考方法といふこと

第四者の出現

反骨の姿勢

社會科學者への提言

革命の文學と文學の革命

文學的無翼雞

職業としての文學

文學と惡魔

ことばの魔術

文學運動の基調

歴史としての現實

現代の挫折について

批評家への期待

純文學攻撃への抗議

純文學の過去と現在

純文學論争の根本點

純文學と昭和文學

純文學と文士

「種蒔く人」と私の青春

現代といふ時代

現代史と小説

昭和「新潮」私観

作家の職業化と文學

死について語る楽しみ

解説
平野謙
解題

810 799

783 776 769 763 748